

資料3	平成30年12月27日
	「授乳・離乳の支援ガイド」 改定に関する研究会 (井村委員御提出資料)

医療機関における妊娠、出産、産後の 期間を通じた一貫した授乳支援



日本赤十字社

日本赤十字社医療センター
Japanese Red Cross Medical Center

コンテンツ

1. 妊産婦への母乳育児支援
2. 医療機関における情報の共有
3. 医療機関と地域の助産師との連携

※「妊産婦」とは、妊娠中又は出産後1年以内の女子をいう。(母子保健法第6条)

病院としての母乳育児支援

赤ちゃんにやさしい病院(BFH)として「BFHI推進委員会」が病院委員会として設置されている。

- ・年に2回の会議を定期開催
- ・外部委員(保健所長、他施設BFHの小児科医、助産師等)が入り、質の担保を行っている。

1.妊産婦への母乳育児支援



日本赤十字社医療センター
Japanese Red Cross Medical Center

日本赤十字社

時期		ケアの種類	担当職種(部署)
妊娠期		バースプラン作成支援 出産準備クラス 乳房診察 母乳育児に関する情報提供	助産師(産科外来) 産科医・助産師・薬剤師・栄養士(MFホール) 産科医・助産師(産科外来) 助産師(産科外来)
分娩期		早期母子接触	助産師・産科医・新生児科医(分娩室)
産褥期	入院中	24時間母児同室	助産師(産後ユニット)
	退院後 ～生後1か月 まで	すぐベビチェック 2週間健診 すぐママサポート 母乳外来	助産師(周産期外来:小児保健部) 助産師(周産期外来:小児保健部) 助産師(周産期外来:小児保健部) 医師・助産師(産科外来) 助産師(産科外来) 助産師(MFホール)
	生後1か月 以降	・1か月児健診 ・産後健診 ・産後からだケアクラス ・育児クラス ・育児サークル	新生児科医(外来:小児保健部) 産科医(産科外来) 助産師 助産師 助産師
職員教育		・母乳育児支援のための20時間コース ・助産師研修(新人向け研修、母乳外来 デビュー研修) ・職種を超えた母乳育児ワークショップ	医師・助産師・薬剤師 助産師(周産期委員会) 医師／助産師(周産期委員会)

当センターのバースプラン 後期 ～臨月に入るころ～



日本赤十字社医療センター
Japanese Red Cross Medical Center

- 1) 出産に関する心配ごとをどのように解消してきましたか。
- 2) どのようなお産にしたいと思いますか。
また、もうすぐ生まれてくる赤ちゃんへのメッセージはありますか。
- 3) 赤ちゃんとの生活に向けて、**どのような準備をしていますか。**
- 4) お産後の退院から1か月健診のまでの期間をどこで過ごす予定ですか。おもなサポーターはどなたの予定ですか。
- 5) 医師・助産師と相談しておきたいことがあればお書きください。



バースプラン＜後期＞臨月に入るころ

予定日 年 月 日 現在 週 (年 月 日) 記入
ID 氏名

もう少しで待望の赤ちゃんに会えますね。出産に向けて調整をしていきましょう。

1) 出産に関する心配ごとをどのように解消してきましたか。

2) どのようなお産にしたいと思いますか。また、もうすぐ生まれてくる赤ちゃんへのメッセージはありますか。

3) 赤ちゃんとの生活に向けて、どのような準備をしていますか。

4) お産後の退院から1ヶ月健診までの期間をどこで過ごす予定ですか。おもなサポーターはどなたの予定ですか。

5) 医師・助産師に確認しておきたいことがあればお書きください。

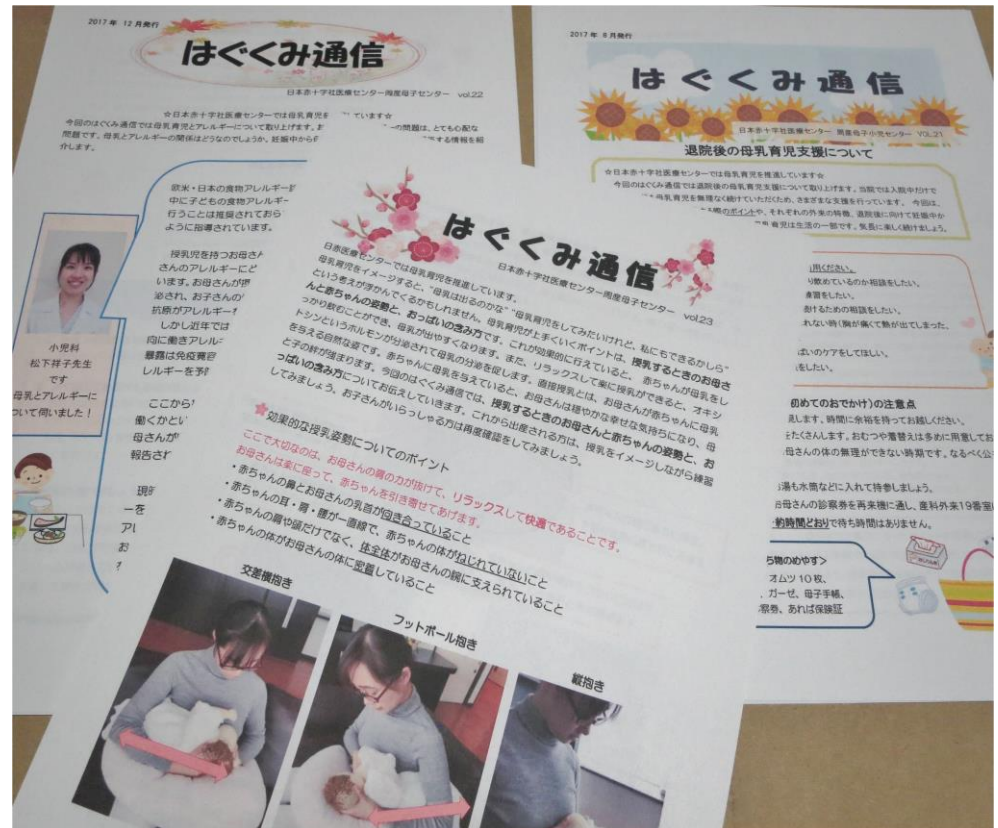
産科外来で個別に育児への
思いと栄養法を確認

外来担当医師 _____ /
外来助産師 _____ /

母乳育児に関する情報提供



【産科外来での情報コーナー】



【病院ホームページでの情報発信】

出生直後の早期母子接触(BKC)・早期授乳



日本赤十字社医療センター
Japanese Red Cross Medical Center

赤ちゃんの観察: 器械的モニタリングと人的モニタリングで見守る

※実施にあたっては、「早期母子接触」実施の留意点を遵守して実施。(2012年10月17日日本周産期・新生児医学会、日本産婦人科学会、日本産婦人科医会、日本小児科学会、日本未熟児新生児学会、日本小児外科学会、日本看護協会、日本助産師会)

- 1** 出生直後**1分・5分・10分・15分後**にタイマーをセットし、観察を開始する。



SpO₂センサーの装着

BKCの実施は、SpO₂が10分後90%以上、15分後95%以上であることが条件である。その後も、十分に観察する。
SpO₂85%以上のチアノーゼは、肉眼的に認めにくいいため、基準値に達しない場合は積極的にモニタリングを継続し、必要時はBKCを中止してしっかりと、観察する。

- 2** 児の頭までタオルでくるみ、低体温を予防する。



ポジショニング

羊水を乾いたタオルでふき取り、母親の胸元に腹ばいに寝かせる。母子のお腹とお腹が密着するように児の体や手足がねじれていないか確認する。

- 3** 胎盤娩出時や縫合時も母親がしっかりと児を抱いていられるよう抱き方を説明します。
児の臀部を支え、児の頭部が自由に動くように支える抱き方を支援する



ポイントは、赤ちゃんの臀部(骨盤)を支えます。
赤ちゃんの臀部(骨盤)を支えると、しっかり安定して抱くことができます

母親の体位を整える

分娩台を**30度前後のファーラー位**にし、母親が**リラックスして過ごせるように体位を整えましょう**。

児が活発に動いて不安定だったり、母が不慣れでなかなか吸着できずにいる場合、児が落下しないように安全管理を徹底し、母が安心できるように、そばで寄り添い支援する。

4



母親の両脇、側腹部にクッションや枕で体を支えると、母親がリラックスを導くことができます。

5

出生後15分: 体温測定

体温は37度以上保つように、頭からの放熱防止に注意し、必要時は温めた掛物や帽子をかぶせるなどし、低体温を防止する。

体色・体温・呼吸状態の観察

児の体色・体温・呼吸状態について観察し、母親と家族に説明し安心して抱っこをしてもらう。
医療スタッフは部屋から離れないことが原則。
やむをえず部屋を離れる場合は、母親と家族に不安なことがあれば遠慮なくナースコールなどで知らせて頂くことを説明する。

入院中の母乳育児支援



日本赤十字社医療センター
Japanese Red Cross Medical Center

1. 入院中のスケジュール

産褥日数	0	1	2	3	4	5
お母さまの目標	スタッフ介助のもと、授乳ができる	・トイレに歩ける ・授乳やおむつ交換ができる ・赤ちゃんの抱き上げができる		・育児に心配なことが聞ける ・おっぱいの変化に気が付くことができる	・退院後のイメージができる ・授乳姿勢を2つ以上知る	心配事の相談先や対処方法がわかる
赤ちゃんとお母さまの予定	新生児科初回健診	毎朝: 全身観察・体重確認 朝夕: 体重・黄疸チェック			新生児科面談	退院
	おっぱい教室 入院オリエンテーション シャワー開始(産後24時間以降)		退院DVD	採血・採尿	退院診察	
入院中の支援	早期からの頻回授乳の支援	オリエンテーション	カンファレンス	産後ショートからだケアクラス(骨盤ケアとリラクゼーションエクササイズ) バックケア(マッサージ)、足浴、沐浴		

2. 入院中の支援

- 1) 早期からの頻回授乳: 母児同室で、赤ちゃんが欲しがるときに欲しいだけ授乳ができるよう、スタッフがマンツーマンで授乳を支援する。
- 2) おっぱい教室: 乳房の変化、赤ちゃんがおっぱいを欲しがるとサイン、赤ちゃんの身体の変化、お母さん自身の身体と心の変化などを実践を交えて説明する。
- 3) カンファレンス: 退院を見据えたケアのあり方を考え、赤ちゃんの状況や対象の意向、心身の状態にあった支援を提案。
- 4) 休息の必要性: 対象の分娩様式や授乳状況から退院後の生活を見据え、必要なタイミングで休息をしていただくことを提案する。
- 5) 産後ショートからだケアクラス: 授乳姿勢や産後の疲労回復、リラクゼーションへのセルフケアの方法の情報提供。
心身を整え、楽しく母乳育児を続けていけるようなエクササイズの提案をする。
- 6) メンタルヘルスケア: 必要時、臨床心理士やMSW、精神科医師、産科医師と情報共有し、チーム医療を提供している。
- 7) 退院後を想定した母乳育児支援: 対象の生活スタイルにマッチした母乳育児の方法を提案。

3. 夫の育児参加

夫の育児支援宿泊(個室入院のみ)のすすめ

入院中から夫婦で日中や夜間を一緒に過ごして育児を行うことで退院後も安心して子育てをしていくための支援。

育児支援宿泊をされるお父様へ



退院後から1か月健診までの授乳支援

名称	目的・内容等
すぐベビチェック	体重増加に不安のあるベビーのフォローが目的。入院していた産科ユニットへ退院から2～3日で来ていただく: 無料
電話訪問	出生から2週間までで、来院でのケアが予定されていない母親を対象に、入院していた産科ユニットの担当助産師が電話で様子を聞く: 無料
すくすくチェック	とくに問題のないベビーを対象に助産師が行う2週間健診。任意だが、児の問題発見や育児不安の解決につながる場合があるので他のサポートを受けていないケースにデフォルトで勧める。: 有料
すぐママサポート	育児不安があり、乳房トラブルはない母親を対象に、外来で助産師が行う: 有料
家庭訪問	自宅での授乳の状況のフォローを望む母親を対象として、産科ユニットの助産師が出向く: 自費
母乳外来	乳房トラブルや授乳全般の支援が必要な母親にお勧めする。産科外来で助産師が行い、随時受け付ける: 有料

【電話訪問】



【家庭訪問】



生後1か月以降の授乳支援

・産後からだケアクラス(退院後)

産後の身体的トラブル予防のための授乳姿勢の整え方や工夫、疲労回復や身体作りのためのエクササイズと母乳育児の仲間作りとして活用している。

・育児クラス(1回/月、1回2時間)

母親学級クラスの一つ。

参加者は、当センターで出産した生後4か月までの母子。
乳房トラブル・補完食(離乳食)、卒乳授乳についてなどの母乳育児や小児科医師より児の成長についての話を聞く。
また、フリートークで母親同士の悩みや情報交換の場としても活用している。

・育児サークル(3~4回/月・多胎は1回/月、1回2時間)

母乳育児を中心としたピアサポートグループの支援を目的としている。

参加者は、当センターで出産した産後健診終了後~1歳まで母子で、母親同士の情報交換・情報共有の場、仲間作りとして活用している。



【産後からだケアクラスの様子】



【育児サークルの様子】

授乳支援に向けた職員教育 「母乳育児支援のための20時間コース」

【開催回数】

毎年1コース(1日集中/月×3回 3ヶ月間)
(1日数時間×10回 6ヶ月間)

【参加職種】 看護師, 助産師 15名定員

【講師】医師・薬剤師・栄養士・助産師

看護大学教員とのコラボレーション

【プログラム】

- WHO/UNICEF教育プログラム.
- 10ステップ・国際規準に基づく支援.
医学的根拠、具体的授乳支援、
コミュニケーションスキルを修得.
- 学修間隔をあける効果:
 - ・学修内容を臨床実践で展開し、次回セッションでリフレクションを行い学修を深化させる.
 - ・学修と臨床変革の循環性を促す.





職種を超えた「母乳育児ワークショップ」



【開催回数】

毎年10月に1回(90分)

【参加職種】

産科医、新生児科医、薬剤師、栄養士、
看護師、助産師

総勢 70名程度

【プログラム】

毎年8月に開催される「日本母乳の会
シンポジウム」の話題から、当センター
が持つ課題を共有し、今後1年で職場、
職種が協働して解決していくことのできる
アクションプランを出している。

2. 医療機関における情報の共有 (電子カルテによる情報共有)

氏名 香川 すすも (カガフ テスト0001) 患者番号 0000000001	
生年月日 1986年11月09日(31歳) 血液型 O Rh(+) 経産回数 40週3日(済) 経産産後 G2P2	
1児 児ID 91000001 児氏名 分産日 2017年04月08日 分産様式 経産分産	
受診日時 2017/06/17 00:00	受診日時 2017/06/24 00:00
担当者 テスト看護師B 日齢 14日	担当者 テスト看護師B 日齢 21日
☒ 児の体重増加不良 ☐ 母乳不足感 ☐ 補足量の相談 ☐ 吸着困難 ☐ 乳房トラブル(白斑 乳頭痛 疼痛) ☐ 発熱 ☐ 平乳相談 ☐ その他	☒ 児の体重増加不良 ☐ 母乳不足感 ☐ 補足量の相談 ☐ 吸着困難 ☐ 乳房トラブル(白斑 乳頭痛 疼痛) ☐ 発熱 ☐ 平乳相談 ☐ その他
体重 出生時 3175g 退院時 3375g	体重 出生時 3175g 退院時 3375g
前回の母乳外来受診時体重 6175g 本日の体重 6875g 3500g増減 50g/日増	前回の母乳外来受診時体重 6175g 本日の体重 6875g 3500g増減 50g/日増
☐ 乳房膨満・充満 ☐ 乳汁うっ滞 ☐ 乳管閉塞 ☒ しこり・硬結 ☒ 乳汁のうっ滞 ☐ 乳頭炎 ☐ その他	☐ 乳房膨満・充満 ☐ 乳汁うっ滞 ☐ 乳管閉塞 ☒ しこり・硬結 ☒ 乳汁のうっ滞 ☐ 乳頭炎 ☐ その他
退院時栄養 ミルク	退院時栄養 ミルク
授乳の様子 授乳回数 搾乳 ☐ ml × ☐ 回 14回 ミルク ☐ ml × ☐ 回	授乳の様子 授乳回数 搾乳 ☐ ml × ☐ 回 14回 ミルク ☐ ml × ☐ 回
児の様子 ミノルタ 尿 1回/日 便 1回/日	児の様子 ミノルタ 尿 1回/日 便 1回/日
B.観察所見 ☒ 乳頭所見 在なし 左かきどた ☒ 栄養方法 母乳 ☒ 授乳姿勢/吸着 適切 ☒ 直接授乳 可 ☒ 経過時間 24時間以内	B.観察所見 ☒ 乳頭所見 在なし 左かきどた ☒ 栄養方法 母乳 ☒ 授乳姿勢/吸着 適切 ☒ 直接授乳 可 ☒ 経過時間 24時間以内
プラン 身体を温めましょう、夏場でも素足は避けましょう	プラン 身体を温めましょう、夏場でも素足は避けましょう

- 「周産期専用電子カルテシステム」により、一般検査、妊婦健康診査、入院、分娩、産後までの情報は一括管理されている。
- 母子それぞれの状態、授乳の状況を主に助産師が記載し、**産科医、小児科医、心理職、社会福祉職が共有している。**
- いくつかの診療所は同じシステムを導入しており、WEB共有できるため、**地域からも情報の共有が可能。**



出生直後からの授乳支援と情報共有

氏名 香川 ハナコ (カガワ ハナコ) 患者番号 0000000002
生年月日 1973年09月25日(41歳) 血液型 A Rh(+) 妊娠週数 37週1日(済)

テスト 産婦医師

【新生児】
生死 ☐ 生 ☐ 死 (☐ 分娩前 ☐ 分娩中)
性別 ☐ 男 ☐ 女 ☐ 不明
胎児発育 ☐ AFD ☐ LFD ☐ SFD ☐ HFD

体重 g 身長 cm 頭囲 cm 胸囲 cm

初回精査
産瘤 ☐ + ☐ - 睾丸 ☐ 下降 ☐ 停留
頭血腫 ☐ + ☐ - 鎖肛 ☐ 無 ☐ 有
骨重 ☐ 無 ☐ 有 排尿 ☐ 無 ☐ 有
排便 ☐ 無 ☐ 有

多胎の種類 DO ☐ 胎児治療

Appear
心拍数 呼吸 筋緊張 反射 色 FULL 計
1分
5分 ☐ 挿管

経皮酸素分圧 10分 SaO₂ % 15分 SaO₂ %
UApH (2回目)

分娩時胎児心拍モニタリング ☐ 異常なし ☐ 異常あり
☐ 頻脈 ☐ 徐脈 ☐ LOV ☐ sinusoidal pattern
☐ ED ☐ mVD ☐ sVD ☐ mLd
☐ sLD ☐ mPD ☐ sPD
☐ その他

胎児機能不全 ☐ 無 ☐ 有
心拍レベル分類 ☐ 1 ☐ 2 ☐ 3 ☐ 4 ☐ 5 ☐ 不明 分類表
心拍パターン細変動 ☐ 正常 ☐ 減少 ☐ 消失 ☐ 増加

Appear10点時刻 / / : :
早期皮膚接触開始時刻 / / : :
初回直母の時間 / / : : 生後

胎児血検査 ☐ 無 ☐ 有
☐ GOT ☐ GPT ☐ LDH ☐ CK
☐ CRP ☐ Mg ☐ Ca
☐ T-Bil ☐ TSH ☐ 直接クームス
☐ 血算 ☐ 血型 ☐ 甲状腺

児処置 ☐ 蘇生術なし ☐ 蘇生術あり
☐ CPAP ☐ 酸素投与 ☐ その他

児診断 ☐ 無 ☐ 有
☐ 形態異常 ☐ 外表奇形 ☐ 胎児水腫
☐ 消化器疾患 ☐ その他

NICU立ち会い ☐ 無 ☐ 有 保育器収容 ☐ 無 ☐ 有

早期皮膚接触・初回授乳の様子
哺乳開始時刻 / / : :
探索行動開始時刻 / / : :
児計測 / / : :
初回直母介助 ☐ YES (☐ 母 ☐ 家族 ☐ スタッフ) ☐ NO (自力哺乳) 生後24時間までの直母回数 回

分娩担当医 ミトラユーザー
助産師
新生児医師 ミトラユーザー
麻酔科医師 ミトラユーザー
助産学生介助 ☐ 有 ☐ 無
登録担当者 ミトラユーザー
更新者 テスト 産婦医師
登録日 2014年09月29日 21時23分
☐ オープンシステム
分娩医2
分娩医3
助産師2
助産師3
立会医2
立会医3
麻酔医2

分婭記録中に出生時の母子接触・授乳情報の記入欄がある

3. 医療機関と地域の助産師との連携

・産後の地域連携

産科外来にて、産褥ケアや母乳育児支援が受けられる場所として助産院や施設の紹介を行い、自宅の近くで安心して支援が受けられる。

退院時に、母乳育児の困難が予測された場合、紙媒体によるサマリーや電話で地域の医療機関・助産所へ必要時に情報提供をしている。

・地域助産師交流会(3回/年、1回60人程度)

東京都周産期医療ネットワークグループ事業の一環として行っている。交流会は、連携施設や開業助産師と当センターの助産師と一緒に勉強会などを通じて、情報交換をすることで、お互いの母乳育児の方針を理解し、利用者が質の高い支援が受けられるような場ともなっている。

災害時の母子支援について地域と災害拠点病院で何ができるか検討中→



・東京母乳の会

当センターは2000年から事務局として活動している。現在は、愛育病院・聖路加国際病院・葛飾赤十字病院・立川相互病院・当センターなどのスタッフが主体となって会の運営をしている。主な活動内容は、後援会・シンポジウム(1回/年)、母乳育児勉強会(3回/年)、ワークショップ(1回/年)、ニュースレター発行(4回/年)を行い、都内施設の連携を深め、母乳育児支援の推進を目指している。

臨床心理士(都立大塚病院)が行う母乳育児支援の発表:愛育病院にて→

